で死んだ方がまだ社会の為めになるだらう"。氏は逝去数年前に登行困難な尾瀬周辺の山の一つにヘリコプターで訪れているが，恐らく老境に入った人間の最後の希望として遠慮深く向ったに違いない。

同記行文には次の一節もある。"男体の下部も追ては此の（足尾の鉱山）毒霧毒風の為めに到底とり返しのつかぬ赤裸にされてしまふのだ。其頃には清滝附近の山は無論足尾の現在の状態と選ぶ所がなくなり，日光山の真の美点は何処に求めることが出来る様になるだらうか。水害は益々起り，山はくづれ，人家は流れ貴重だとかいふ人命は一抹の水泡と共にきえるのである。其時になって人の子は自ら植えた罪のために亡さるるのだ。そして喜んで成仏するのだらう。此の如く自然を虐げても我慾を逞うせんとする者が，自分と同じく，少くも形態学上から，人類として取扱はれ，社会や国家をなす分子であるのかと思ふと，もう一刻も早く人間をやめてしまひたい。そして青空を翔る白雲とでもなって残忍な人類の面上に天から唾してやりたい"。

武田博士が例の端正な姿で胸に勲章をつけている写真がある。多くの政治家共が 1 等の勲章を貰って得々としているのに比べ，何とつましい大きさよと慨嘆する者があるとすれば，余計なお節介であろう。高嶺の岩蔭につましく咲くサキシフラガの花をアクセサリーとして何気なくつけられたようにも思われる。

最後に博士から頂戴した一葉の写真を掲げて締め括りとしたい。尾瀬ヶ原で 1954 年 7 月 2 日に撮影したものである。ウラジロヨウラクにツツジノモチビョウキンが寄生したものと思われるが，何れ近日中に現地調査，確認の上，尾瀬ヶ原最初の記録にする積りである。

（国立科学博物館）

○高等植物分布資料 Materials for the distribution of vascular plants in Japan.

98　アカバナルリハコベ *Anagallis arvensis* forma *arvensis* 岩手県南部の胆沢郡衣川村下衣川に住む千葉タカ氏から，昨年末写真と種子を同封して，数年前から異様な赤花のハコベが，近くの麦畑に生えているが，正しい名を知らせてほしいとの照会があった。不明のまま本年試みに栽培観察したところ，6 月中葉にコハコベの群落中に，赤花をつけた 10 cm ほどの目的植物が現れた。千葉氏から送られた約 40 cm の同植物と生態写真など同封，国立科学博物館の金井弘夫氏に同定をお願いしたところ，意外にもルリハコベ（サクラソウ科）の一品種アカバナルリハコベとのご教示を戴いた。なお分布上参考資料となるので，当館の標本番号は TNS 370546 であると書き添えてあった。因みにルリハコベは小笠原や伊豆諸島，本州南部，九州などに知られた汎温・熱帯植物であるが，どうしてここまで北上したかは解明出来ない。終りにご助言戴いた金井弘夫氏並に生態写真家時田克夫氏及び資料提供者千葉タカ氏に謝意を表します。

（岩手県遠野市青笹町　小水内長太郎 Chotaro KOMIDZUNAI）。